



今月は、濁川小学校の全校児童で製作した木工作品が「第25回北海道木工作品コンクール」において見事、優秀賞を受賞されたという事から、担当の小野千鶴先生をとおしてこの作品製作の取り組みについてお話を頂きました。

濁川小学校では、木工作品の製作を伝統的に継続しております。

全校児童が主体となって取り組みを進めており、教員は危険な道具（電動のこぎりやグルーガン等）の使用の際のお目付け役だけで、技術的な指導はほとんどしていません。

ほとんど全てが子ども達の発想と技術で作られています。授業の時間は「総合的な学習の

【樹木】と「図工」の時間を活用して、テーマの選定から実際の製作まで行います。年によっては足りない材料を集めるところから始めます。もちろん授業だけでは時間が不足している部分もありますので、夏休みに製作に参加できる子ども達の追い込みが鍵になっています。

製作期間は5月下旬～8月末の約4か月、夏休みの終わりごろに完成して、コンクールに出品するような流れです。

今回の受賞作品の名前は「濁川の浜辺でくじらと遊ぼう!」、テーマは「海」で「くじら」を作りたい!という思いが強く出ており、それに近隣の紋別市のカニの爪、キャンプ場も作りたいという意見が詰まった作品に仕上がりました。

特に4～6年生がこだわって作った「くじら」はしっぽが動くギミック付きで、ひらひらと気持ちよさそうに動きます。



今年作品「濁川の浜辺でくじらと遊ぼう!」

低学年の子どもたちも、どんぐりを使って、人やお魚などパーツを作った協力します。高学年の子どもが台座の大きな部分や、ギミックにあたる仕掛けなどを作成して、全校生徒みんな協力して作っています。

今年からコンクールの規定の作品サイズが小さくなり、それに対応するのも中々大変でした。

作業の中で高学年の子どもが低学年の子どもにも作り方を教えており、先生の指導や知恵がなくとも子どもだけで製作できています。

長く続いてきたものですし、来年も児童たちが楽しみにしているので、引き続き出展を考えています。子ども達の中ではもう「来年のテーマを決めた!!」なんて話もあるみたいです。

授業の時間数の関係で今までと全く同じように授業を使っているとは思えないかもしれませんが、この伝統を引き続き継続していけるように濁川小学校全体で取り組み方を考えています。



メインの「くじら」

第25回北海道こども木工作品コンクール

木工工作団体の部優秀賞

作品名

「濁川の浜辺でくじらと遊ぼう!」

製作者：滝上町立濁川小学校

☆濁川kids☆

6年生…五十嵐 晴光、保科 龍汰

5年生…関町 凧、山下 紗希

4年生…高山 創多

3年生…五十嵐 理好、岡元 優香

金子 莉暖、木村 詩音、

藤井 瑚々奈

2年生…中村 彩人、西田 芽生

1年生…奥田 空弥、越智 圭人、

関町 瑠華、藤井 柑奈

